

【現状と課題】

- 帰国・外国人児童生徒等の数及び在籍する学校数が見られ、対象児童生徒等の指導や保護者対応等の校内支援体制を構築する必要がある。
- 対象児童生徒等が在籍する学校に、外国人児童生徒生活支援員及び帰国子女等対応非常勤講師を配置しているが、人員数・時間数の制限等もあり十分な対応ができないと感じている。対象児童生徒等は日常会話はできても、学年相当の学習用語が不足し、学習活動参加及び学習の理解度に支障が生じている。
- 伊万里市では、平成29年度に日本語指導担当教員の配置を受け、指定校での校内支援体制の構築を図ってきており、そのノウハウ等を対象児童生徒等が在籍する学校でも参考にしていく必要がある。また、進路保障の視点から、中学校における支援についても、連携を図り、充実させていく必要がある。
- 近隣市である武雄市への巡回指導を行っている。他市町間における巡回指導について、連携の図り方等充実させていく必要がある。

【実施事業の概要】

- 1 日本語指導担当教員が配置された市内の指定校における校内支援体制を深化させるとともに、他の対象児童生徒等在籍校と共に行動連携し、実態把握や日本語指導を支援することにより、市内全体の支援体制を構築する。また、指定校における公開授業等の実施により、その成果を市内、そして、近隣市に普及し、支援方法の共有を図る。
- 2 伊万里市や武雄市においてDLAを実施し、対象児童生徒等の日本語能力等を測定するとともに、客観的な評価の在り方や指導への活用方法を探る。また、在籍校において、個に応じた効果的な指導が行われるようにする。【巡回指導】
- 3 「特別の教育課程」の編成・実施及び個別の指導計画の作成・実施において、PDCAサイクルの取組を充実させ、対象児童生徒等の日本語力向上や学習活動への積極的参加につなげる。【巡回指導】

取組内容の具体

1 研究指定校における指導体制のモデル化

研究指定校は、DLAの活用により対象児童生徒等の日本語能力を把握する。また、「特別の教育課程」による日本語指導を実施する。

校内支援体制を構築するとともに、公開授業等の実施により、学習支援や生活支援のノウハウを伊万里市及び他市町に普及・啓発する。

2 市内対象児童生徒等の日本語能力の適切な把握

対象児童生徒等の実態把握のためにDLAを実施し、日本語指導への活用方法を探るとともに、個に応じた効果的な指導が行われるようにする。

日本語指導担当教員が対象児童生徒等が在籍する学校と行動連携し、実態把握や日本語指導を支援する。【巡回指導】

3 「特別な教育課程」による個別指導計画作成・評価

対象児童生徒等在籍校連絡会において、研究指定校における取組を共有するとともに、対象児童生徒等の日本語能力や発達段階に応じた組織的かつ継続的な指導の大切さを広げる。【巡回指導】

目指す成果(評価方法)

1 研究指定校における「特別の教育課程」による個別の指導目標達成
(達成率100%)2 対象児童生徒等へのDLA実施率の向上
(R6年度との比較)3 研究指定校・対象児童生徒等在籍校における日本語指導担当教員による校内研修の実施。
(達成率100%)